

台湾における地形地名*

劉 伯 雯**

本研究では、一般的に地形と直接関係があると考えられる地形地名（河川名語尾の場合を除き、地形名つき行政地名を指す）に着目し、特殊な自然環境および社会環境を有する台湾の地名の中から地形地名を抽出し、その分布状況を中心に分析を行った。

高い山々が連なった台湾山脈を有する台湾の地形的特徴、および現在の台湾人の母体となっている漢民族の出身地である中国大陆の古くからの自然観に基づく思想の影響のため、相当数の地形地名が行政地名にも現れている。

例えば、「山」のつく行政地名は山地にもあるが低地や丘陵地にも多くみられる。「溪」のつく行政地名は大きい川の沿岸に多くみられるが、北部の一部を除き、山地内には非常に少ない。

また、河川名語尾についてみると、台湾の山地とその地形を反映した「溪」が圧倒的に多いが、低地には「河」と「川」が少数みられ、これらについて分析を行った。

[キーワード] 1 地形地名 2 台湾山脈 3 自然観 4 行政地名 5 河川名語尾

[keywords] 1 topographic place name 2 Taiwan Mountain Range 3 perception of nature
4 administrative place name 5 suffixes of river names

1 はじめに

地名には実にさまざまなものがある。長いもの、短いもの、難解なもの、他民族起源のもの、自然によるもの、高次な文化を指向したもの、方位に関するもの、数を表すもの、生活習慣に基づくもの、その他、無数にある¹⁾。今ここで述べようとするものは、これらのうち、とくに地形と直接関連した地形地名である。

地形地名に対する解釈にはいろいろな説がある、松尾が「地名を生む自然、人文関係のさまざまな現象のうちでも、地域の別を問わず、地形は古人間生活ともっとも深い親近性をもって結ばれてきたものの一つである。各地の生活実態は地形的特性と極めてよく対応して営まれているありさまが地名を通して伺い知れる。地形に因む地名、すなわち、地形地名は地形的特徴を簡明に表したものが多し²⁾と

述べているように、一般的に地形地名とはその土地の地形の特徴によって生まれた地名、逆の言い方をすれば、地形地名からその地域の地形的特徴が分かると言われている。

しかし、いままでの地形地名に関する研究は主にその地名の起源あるいは由来に関するものが多い。ここでは、従来の地形地名の解釈を少し変えて、地形地名を「地形名つき地名」と原則として定義し、その地形地名の分布と地形との関連を調べることにした。

本研究においては数多くある台湾の地形地名の中から、台湾の地形をよく表すと思われる、また数の多い「山」および「溪」のつく地名を取り上げ、その分布図を作成し、地形地名と地形との関連を明らかにしようとするものである。また、河川名語尾についても研究を行った。さらに、台湾地名の大部分が漢民族によって付けられたものなので、関連の深い大陸の福建省・江蘇省との比較も行った。

* 本稿は平成7年度日本地理教育学会において発表した内容を加筆・修正したものである。

** 立正大・院

II 台湾地名数と地形地名の傾向

現在、台湾の行政区域は16県、1局、11市、42区、307郷鎮、そして6,562村里に分けられている。仮に、1里村に平均五つの地名が存在するとすれば、台湾全体では33,000前後の地名があることになる³⁾。

本研究の基本データは25万分の1の地図からとり、部分的に5万分の1地形図で補った。この25万分の1の地図には全部で5,302個の地名が索引に記載されている。その中で地形地名と思われるものは少なくとも2,407個あり、全体の半分近くにあたる45.4%を占めている。

そのほかには、数字に関するもの(一、二、三、五、八、九、十、万)、方角に関するもの(東、西、南、北、中、後、内、外)、動物に関するもの(牛、馬、鳥、鹿、龍)、色に関するもの(白、紅)、植物に関するもの(竹、林、草)を用いた地名が多く存在している⁴⁾。

地形地名の2,407個の一覧を第1表に示す。この表から明らかなように地形地名に用いられている地形名は全部で60種類、2,407個である。最も頻度の高いのは「山」であり、その数は496個で、全体の5分の1強にあたる21.0%に達している。2番目に多いのは「溪」で、238個(9.9%)、以下「坑」が201個(8.4%)、「埔」が153個(6.4%)、「湖」が129個(5.4%)と続く。

これら台湾の地形地名を山系統(山に関係しているもの)、水系統(水に関係しているもの)、および平地系統に分けてみると、次のように分類できる。

山系統は「山」「崙」「坪」「嶺」「崁」「崎」「台」「岡」「鼻」「丘」「峯」「巖」「角」「洞」「岳」「巒」「坂」「壠」「岫」「峽」の20種類、全地形地名60種類の33.3%、そして地形地名数は889個で、全地形地名数2,407個の36.9%である。

水系統は「溪」「坑」「湖」「水」「潭」「海」「洲」「溝」「湾」「嶼」「埤」「沙」「坡」「澳」「島」「泉」「河」「江」「堀」「岸」「礁」「川」「浦」「瀨」「池」「窟」「洋」「谷」「淵」「瀧」「岬」「汀」「澤」の33種類であり、全種類60の55.0%、また地形地名数においては1,151個で、全地形地名数2,407個の47.8%である。

また、平地系統は「埔」「田」「平」「原」「野」「埕」「墘」の7種類で、全地形地名種類60種類の11.7%、地形地名数において367個で、全地形地名数2,407個の15.3%となっている。

このように、台湾の地形地名全体の傾向は水に関するものが地形名の種類、地名数とともに50%前後を占め、山に関するものは地形名の種類、地名数共35%前後で、平地に関するものが15%前後の割合となっている。

上記のように、水に関する地名が圧倒的に多い比

第1表 台湾全国の地形名に対する各地形名の比率

地形名	個数	%	地形名	個数	%	地形名	個数	%
山	496	21.0	沙	27	1.2	礁	7	0.3
溪	238	9.9	崎	26	1.1	川	7	0.3
坑	201	8.4	台	26	1.1	浦	7	0.3
埔	153	6.4	坡	25	1.0	窟	7	0.3
湖	129	5.4	峯	22	0.9	巒	6	0.3
田	94	4.0	澳	19	0.8	瀨	6	0.3
水	94	4.0	岡	18	0.8	池	6	0.3
崙	93	3.9	巖	17	0.7	洋	6	0.3
潭	77	3.2	島	17	0.7	谷	5	0.2
平	67	2.8	角	17	0.7	埕	5	0.2
坪	59	2.5	泉	17	0.7	淵	4	0.2
海	40	1.7	河	14	0.6	坂	3	0.1
洲	35	1.5	鼻	14	0.6	岳	3	0.1
溝	34	1.4	丘	12	0.5	墘	2	0.1
湾	33	1.4	原	11	0.5	瀧	2	0.1
嶼	32	1.4	江	11	0.5	岬	1	0.1
嶺	32	1.4	堀	11	0.5	汀	1	0.1
崁	30	1.3	洞	11	0.5	岫	1	0.1
壠	28	1.2	野	9	0.4	峽	1	0.1
埤	28	1.2	岸	9	0.4	澤	1	0.1

合計 60種類、2,407個 資料：『中華民國地図集』(1966)

率となっているが、それは地名数が人口分布（集落数）とほぼ比例関係にあることに関連している。すなわち、台湾開発は西部沿岸地域にはじまり、多くの河川に沿って奥地へと進んだため、海岸および河川に沿って集落が多く生まれ、必然的に水系統の地名の数も多く発生したといえよう。

ところで、人間の居住地として適しているのは平地であり、平地に関する地名数が多く存在しても良いと考えられるのに、前述したように山系統地名のほうが、平地のそれよりも多いことが台湾の大きな特徴と言うことができる。その理由として考えられることは、台湾は3.6万km²の面積であるのに、3,000m級の山々が連なった山脈が南北に走っているため、もともと人間の居住地域に適する平地の割合が少ないことによっても考えられるが、逆に山と同時に併存している住民にとっては「山」に対する意識が強く、地名にも反映されているためと考えられる。

台湾地形地名の中で2番目に頻度の多い「溪」とは谷川のことであり、水の流れの急な、あるいは水の量のそれほど多くない河川のことであり⁵⁾。台湾を南北に縦断している高い山々の連なった台湾山脈から東海岸（太平洋側）、および西海岸（台湾海峡側）に多くの河川が流れているが、山が急峻であるために一部の河川を除いては、その流れも急で「溪」と称されるのが当然であると思われる河川がほとんどである。逆の言い方をすれば、「溪」の地名も台湾の山の急峻さに関係している地形地名であると言えなくはない。

また、3番目に多い「坑」も「溪」と同様水系統に属する地形地名であるが、その意味は山地の小谷のことであり、やはり山と関連している地名である⁶⁾

その他、「嶺」「峯」「巒」「岳」も山と同義語であり、さらに、「洞」「谷」「滝」なども山があっはじめて生じた地名であるということが出来る。このように考えると、台湾の地形地名に対する台湾山脈山の影響は非常に大きいと言わざるを得ない。

III 地形地名の実例とその分析

1. 「山」のつく行政地名

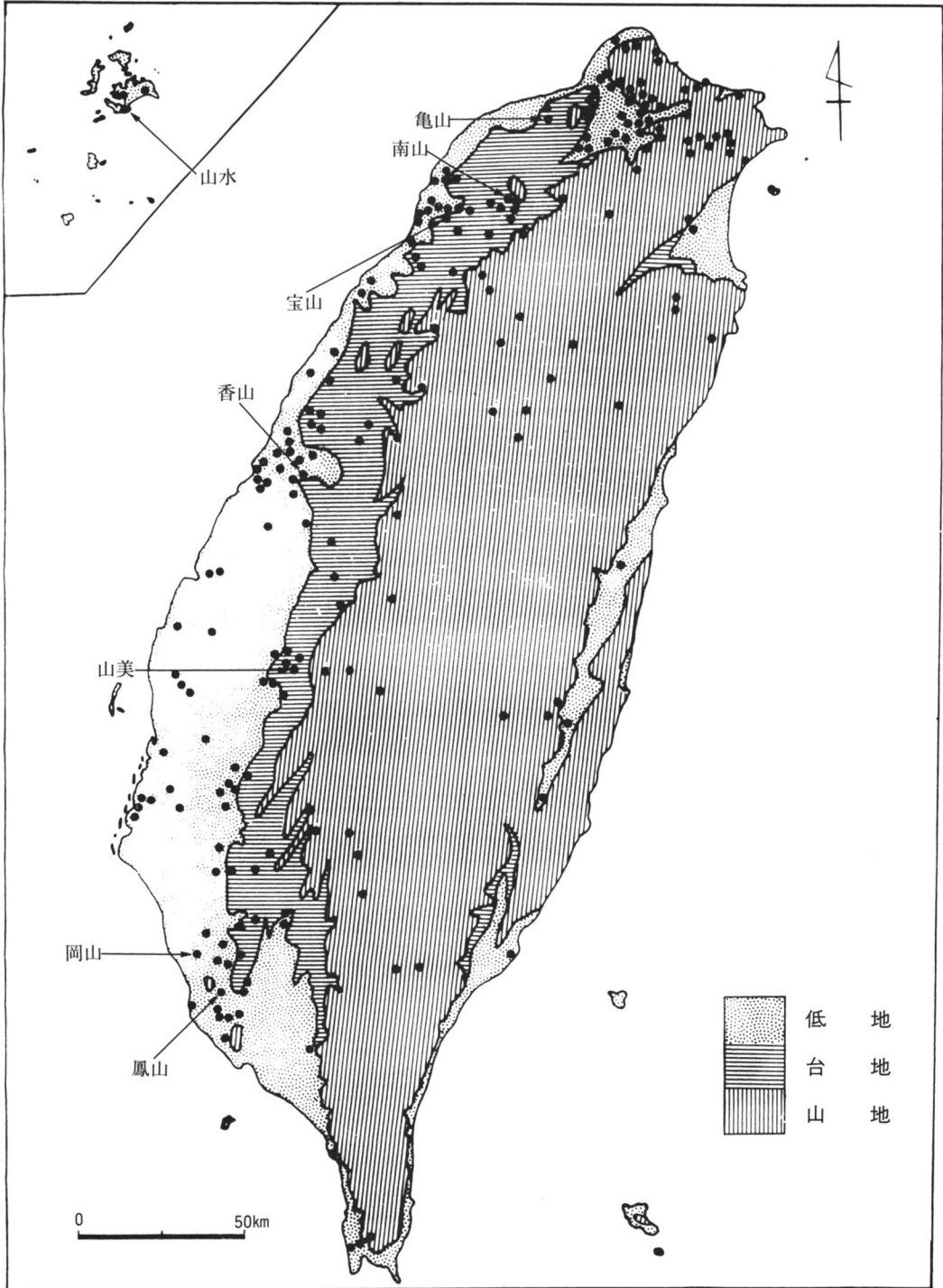
前章で明らかのように、台湾の地形地名の中で「山」という字のつく地名は一番多く、496個（21.0%）に及んでいる。

「山」を用いた地名は、行政地名のほか、山岳類を含み、台湾全域にほぼ平均して分布しており、山地以外の台地、低地にも数多くの「山」の地名が存在している。その中から山そのもの（例：阿里山、玉山）を除いた、いわゆる行政地名の中に「山」を用いたもの（例：岡山、金山、山美）などを別に取り上げてみると、その数は211個あり、「山」を用いた地名の約半分近い42.5%にのぼる。

そこで、より詳細にその内容を分析するために「山」のつく行政地名のみを取りだし、台湾の地形分布図に示したのが第1図である。この図から「山」を用いている行政地名は山地に64個で、「山」のつく行政地名211個の30.3%であるのに対し、台地には45個（21.3%）であり、さらに、低地にも102個（48.3%）が存在していることが分かる。特筆すべきは、「山」を用いた行政地名でありながら台地にも多く存在し、特に低地に半分近い48.3%もの「山」のつく行政地名が存在していることである。

このように山地ではない台地、特に低地に「山」のつく行政地名が非常に多くあることは興味深い。その理由は次のように推測される。

- ①台地や低地だが台湾山脈の山々がつねに近くにみることが出来るためと思われるもの（例：山美、南山）。
- ②漢民族の渡来とともに中国の伝統的地名をそのまま使用したと思われるもの（例：山水）。
- ③台地や低地だがその近くに低い山が存在しているためと思われるもの（例：大崗山の近くの岡山、八卦山の近くの香山）。



第1図 台湾における「山」のつく行政地名

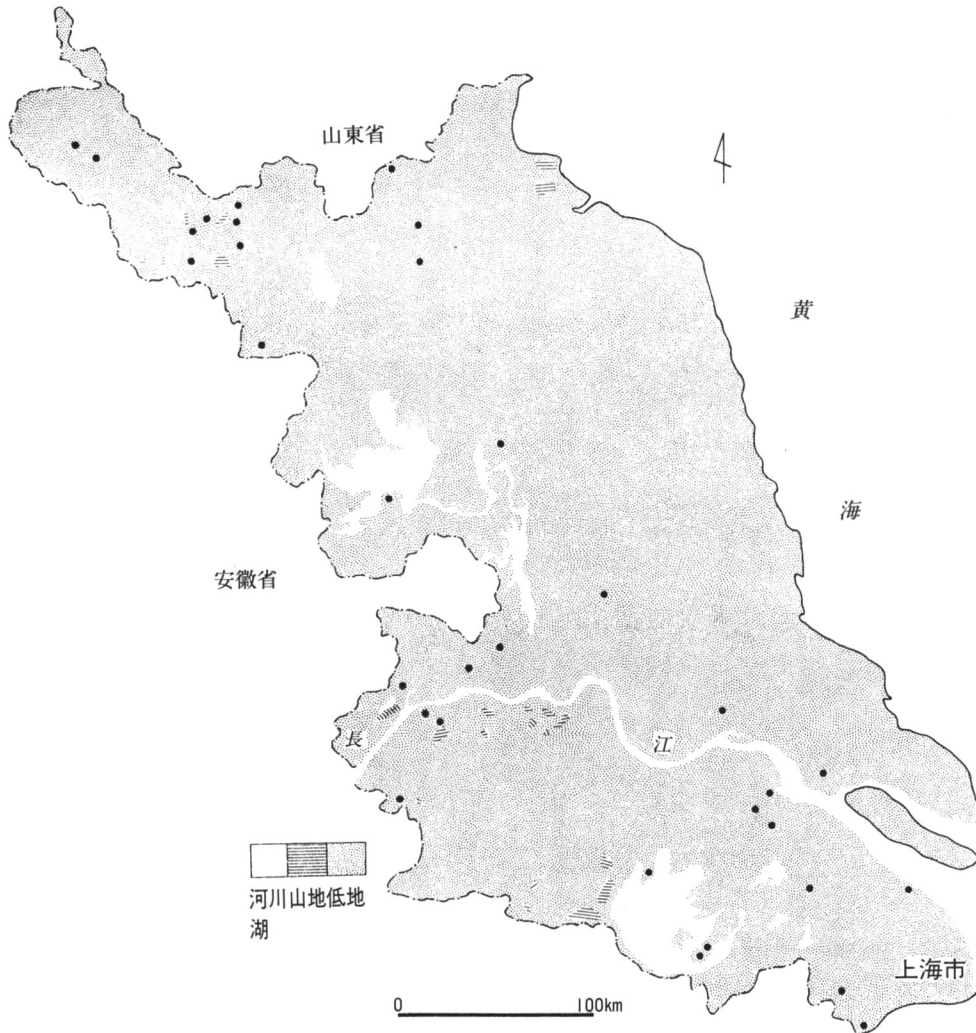
④台地や低地だがその部分が少し高くなっているためと思われるもの（例：鳳山，亀山，宝山）。

この中で最も重視されるべきと思われる理由は、①のつねに近くに高い山が見られることによるものであろうことは台湾の地形から十分考えられる。

一方、低地でありながら「山」のついた行政地名の存在は中国大陸にもみることができる。第2図は全域がほぼ低地である中国江蘇省における「山」のつく地名をプロットしたものである。江蘇省は、東は黄海に面し、揚子江がその中央や南を流れてお

り、内陸部には多くの湖があり、全域が低地といってよい。第2図によると、江蘇省には「山」を用いた地名が、全地名の1,076個のうち、33個あり、割合は3%である（しかし本図は175万分の1であり、より拡大された地図によればその数はさらに増えるものと思われる）。

近くに高い山や山並みのないこの地域に「山」のつく地名が多く存在していることに対し、陳正祥は「中国の人々は伝統的に山と水を楽しんできた。したがって、中国の地名のうち、山名や水名がかなり大き



な部分を占めている。そして、一般の地名にも山や水にちなんでつけられたものが極めて多い」と述べている⁷⁾。

このような理由から、全域がほぼ低地である江蘇省に「山」のつく地名が比較的多く存在することも分かる。そして、このような漢民族の地名観は、少なからず台湾の低地における「山」のつく地名の多さに影響しているものとも思われる。この点に関し、別の観点から分析してみると、台湾における「山」のつく集落名は211個であり、全地名5,302個の約4%にあたる。それに対し、江蘇省は「山」のつく集落名は3%で、台湾より少ない。

さらに、台湾と地形が似ていて、また移住者の出身地である福建省を調べてみると、「山」のつく集落名は全地名825個のうち、33個であり、約4%を占め、台湾の比率とほとんど同じである。陳正祥の説の通りであるとすれば福建省は移住者の出身地でもあり「山」のつく地名が台湾とほぼ同じ比率であるということは興味深い現象である。しかし、いずれにせよ、台湾の「山」のつく地形地名は山そのものと直接に関係の少ない地域に多く分布している。「山」のつく地形地名は、地名と地形とが一致しているとは必ずしも考えられない地形地名であるということができよう。

2. 「溪」のつく行政地名

「溪」を用いている行政地名は全部で94個であり、「溪」のつく全地名238個の39.5%である。すなわち、その他は前述した河川名などである。この「溪」のつく行政地名94個を地形区分図にプロットしたのが第3図である。

この図から明らかなように、「溪」のつく行政地名は山地に28個（「溪」のつく全行政地名の29.8%）、台地に15個（16.0%）、低地に51個（54.3%）存在しており、低地に半数以上があることが分かる。また、山地にある28個の行政地名のうち、19個は台

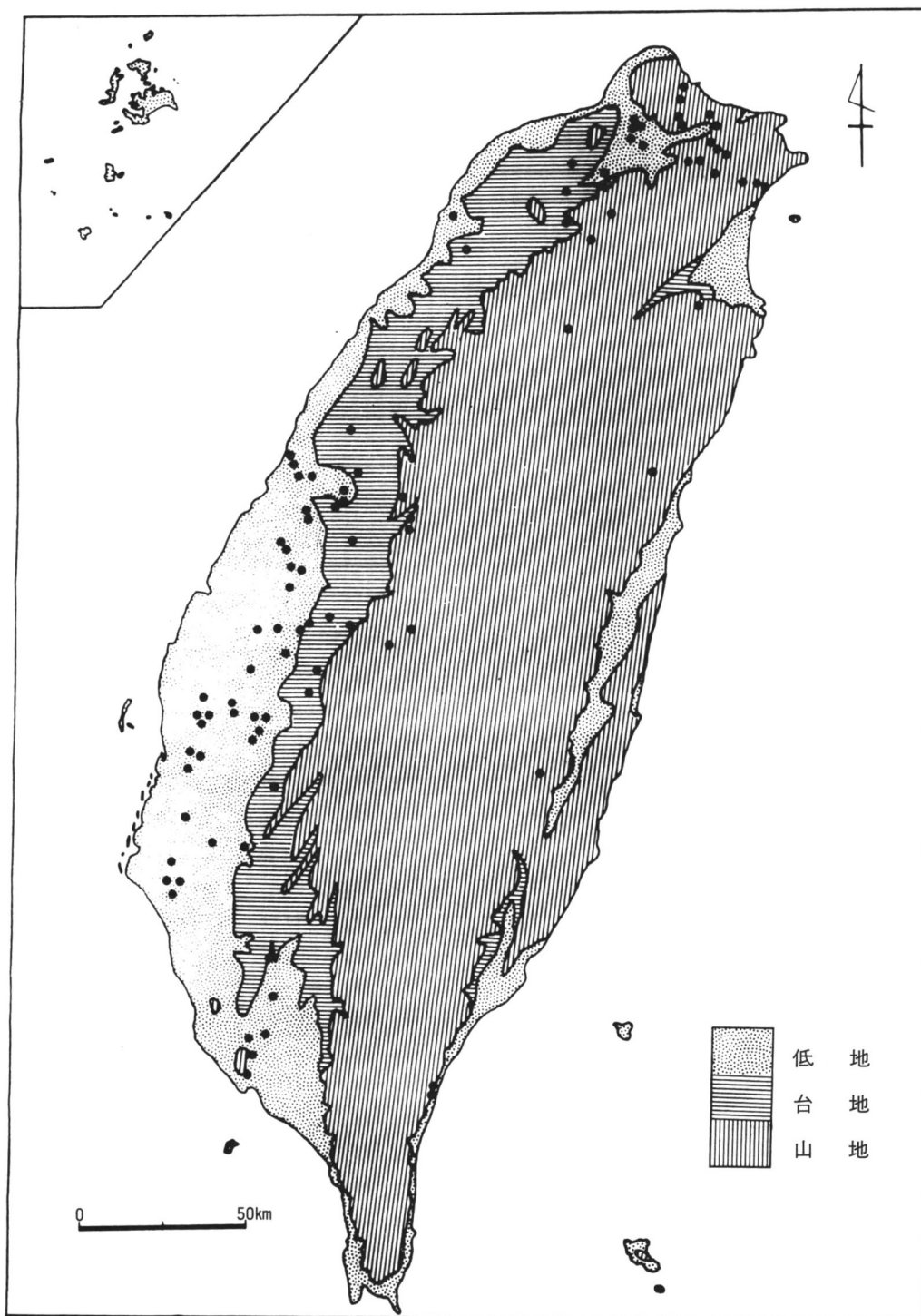
湾山脈北端部一帯にのみ集中的に存在しており、本格的な山岳地帯には「溪」のついた地名は非常に少ない。また、南北にはほぼ均一に分布しているが、台湾山脈を境として分布は東西で極端に違っており、その90%は西側にあり、東側にはほんのわずかしかない。

一方、これら「溪」のつく行政地名は前述した台湾の河川（ほとんどが「溪」と称している）と関連しているのは当然である。ちなみに、河川である「溪」の分布図と「溪」のつく行政地名の分布図を重ねてみると、ほとんどの行政地名は河川の「溪」に沿っているか、近くに存在していることが分かる。

例えば、「溪頭」は台湾最大の溪である濁水溪の支流にあたる有蘭溪が阿里山に源を発し、この地のあたりから「溪」の形をなした、いわゆる「溪」の最上流部にあり、「溪洲」は西螺溪と虎尾溪で作られた三角州の頂点にあり、「溪口」は北港溪の中流に位置している⁸⁾。

河川である溪は東側にも多く流れているのに、行政地名としての溪が西側にのみ多く存在するのは少々奇異である。その理由として考えられるのは、全体に東側には平地が少なく、山並みが海岸の近くまでせまってきているため、元々人が生活を営む集落が少ないことにもよると思われるが⁹⁾、西側に流れている河川の溪に比べ、東側の河川は長さも短く、小さな河流しかないことも理由の一つであるかも知れない。

以上のように、「溪」に関する地名について、河川名および行政地名に分けて分析したが、「溪」のつく行政地名は「溪」と呼ばれている河川に深く関係していることが分かった。しかし、「溪」と呼ばれている河川名の中には、特に西部平原を流れている河川を中心に、その状況から「溪」と言うには適さないものが多い。それらをも「溪」と称していることは、地名と地形が完全に一致している地形地名とはいいい切れない。



第3図 台湾における「溪」のつく行政地名

IV 河川名語尾 「溪・河・川」

台湾の地形地名の中に2番目に多いのが「溪」であり、その数は238個で、全地形地名の9.9%にあたる。そのほとんどは河川名であり、ここでは、「溪」と深くかかわっている河川名語尾の「溪」「河」「川」について考察する。

河川名については、より詳細に分析するため5万分の1地形図を資料とした。これによると、台湾の河川は大・小河川を含め325本あり、それを地図に示したのが第4図である。図から明らかのように、台湾を背骨のように南北に縦断している台湾山脈では、東西側に本流・支流をあわせ、非常に多くの河川が流れており、河川名語尾に「溪」をつけている。

「河」と呼ばれているものもいくつか存在するが、それは台湾北部にある淡水河、その支流の基隆河と東河、それに高雄市内南部の愛河の4本のみである。また、「川」を語尾にするものは隆隆川、内寮川、大溪川、頭圍川、双溪川、温子川、淇武蘭川、宜蘭川、冬山川、三富川、中壠川、北勢川、東勢川、社子川、後勁川の15本である。その他はすべて「溪」と呼ばれている。つまり、325本の河川のうち、「河」を語尾とするものは4本で、1.2%であり、「川」を語尾とするものは15本で、4.6%にすぎない。すなわち、残る306本(93.8%)はすべて何々溪と呼ばれている河川である。

別の角度から調べてみると、台湾の河川は上記のようにほとんど「溪」と呼ばれているが、「溪」という字を中国辞典で調べてみると「山間的流水」(山間の水の流れ)とあり、急峻な山に源を発している台湾の河川は、まさにこの意味と一致しているということもできる。

台湾の河川の中で水運に利用されているのは、わずかに淡水河の下流の一部、および基隆河の一部のみである。そのほかは、流れが急な河川で勾配がき

つく、河口付近まで石や砂が堆積している。例えば、中部にある後龍、大安、大甲等の溪は1kmあたり20~30mの落差を有しており、中国的にみると、まさにこれは山の河川に属し、水運に利用することは不便である¹⁰⁾。つまり、「溪」と呼ばれるのにふさわしい。「川」「河」と称されている河川のみを取り出して分布図にしてみると、第5図のようになる。この図から分かるように「川」についてみると、東部の三富川と南部の後川を除いて、すべてが台湾北端部を流れている。

なお、「川」の名称は日本の統治と深い関係がある。すなわち、「川」は日本統治時代に初めて出てきた名前である。

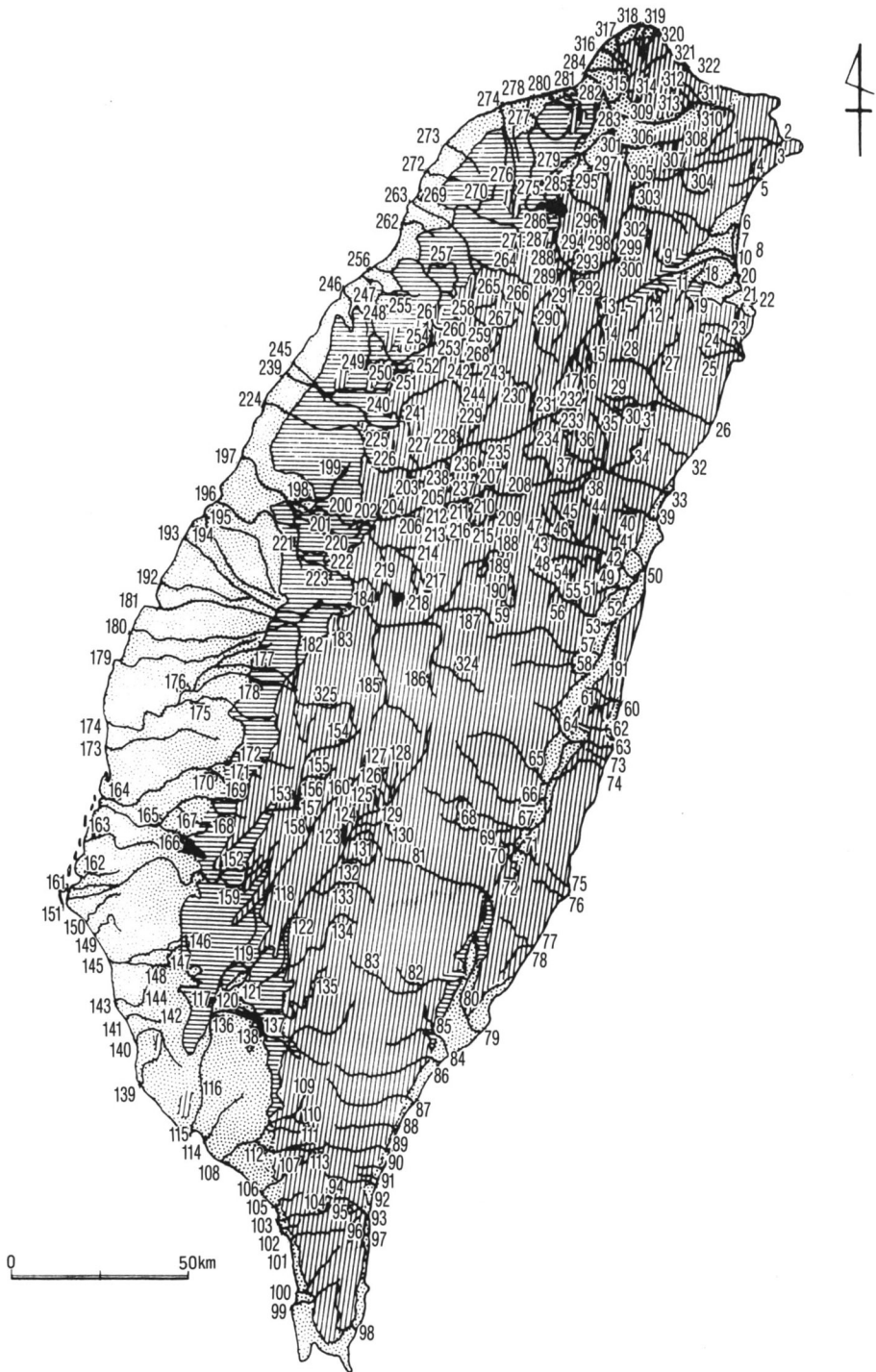
①宜蘭地区にある双溪川、隆隆川、内寮川、頭圍川、淇武蘭川、宜蘭川および冬山川はすべて「川」と改名されたものである。もともと清朝の時代に葛瑪蘭(現在の蘭陽平原)を開墾したときには、濁水溪(東港)および烏石港(西港)と記載されたものが、日本統治時代になって、上記の「河川」と地図に記載されるようになった¹¹⁾。

②台北県にある温子川、横溪川の二つは当初は無名であったが、日本が統治するようになって「川」と名付けられた¹²⁾。

③花蓮地区にある三富川は東部の開発が遅れたこと、また小さい河川であったため、名前がなかった。開発が進むにつれ、当時の日本の慣習によって、「三富川」と名づけられた。

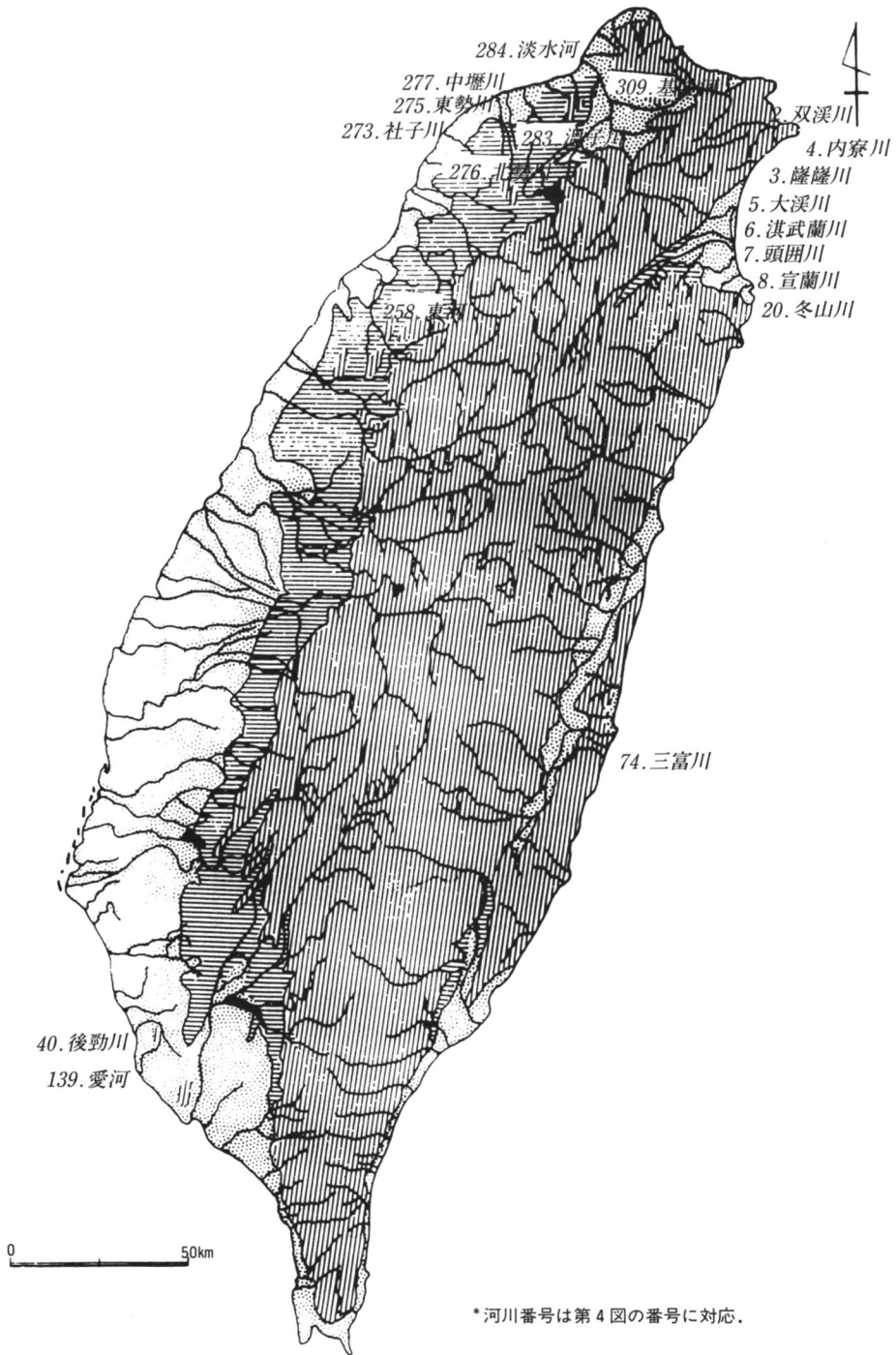
④高雄市の高雄川(現在の愛河)は前清時代に開発されたときは集落の違いによって、川の名前も違っており、船仔頭港、鼎金段、田尾仔港(湾仔内段)、烏魚港、鯨港、打鼓港等々いろいろな名前と呼ばれていたが、日本統治時代に高雄川に統一された。その後、高雄港の開港に伴い、高雄運河となった。1935年に両岸が崩壊し、水深が浅くなったため改修されて、現在の愛河となった¹³⁾。

一方、「河」と称されているのは前述した4本であ



第4図 台湾における河川名

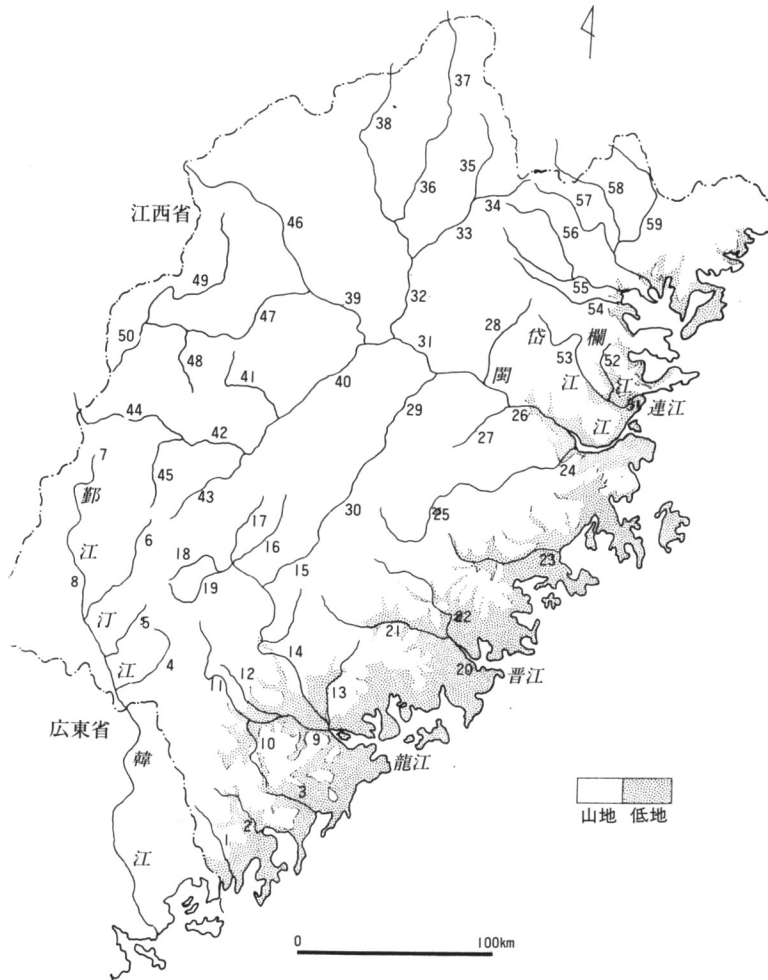
1. 柑脚溪	56. 安来溪	111. ライ社溪	166. 温厝廊溪	221. 猫羅溪	276. 北勢川
2. 双溪川	57. 萬里橋溪	112. 佳溪	167. 龜重溪	222. 樟平溪	277. 中壠川
3. 嶽嶽川	58. 馬鞍溪	113. チカタン溪	168. 六重溪	223. 坪林溪	278. 南坎溪
4. 内寮溪	59. 北溪	114. 東港溪	169. 白水溪	224. 大甲溪	279. 茄苳溪
5. 大溪川	60. 水璉尾溪	115. 高屏溪	170. 頭前溪	225. 中科溪	280. 坑子溪
6. 淇武蘭川	61. 丁子漏溪	116. 下淡水溪	171. 溥水溪	226. 橫流溪	281. 林口溪
7. 頭圍溪	62. 蕃薯寮坑溪	117. 楠梓溪	172. 赤蘭溪	227. 崙馬溪	282. 紅水仙溪
8. 宜蘭川	63. 秀姑巒溪	118. 旗山溪	173. 牛欄溪	228. 匹亞桑溪	283. 溫子溪
9. 大礁溪	64. 馬蘭鈎溪	119. 美濃溪	174. 北港溪	229. 志樂溪	284. 淡水河
10. 蘭陽溪	65. 紅葉溪	120. 三長廊溪	175. 三疊溪	230. スキラン溪	285. フナオ溪
11. 宜蘭濁水溪	66. 太平溪	121. 三重溪	176. 虎尾溪	231. 合九溪	286. 大漢溪
12. 清水溪	67. 拉庫拉庫溪	122. 老濃溪	177. 大湖口溪	232. 南湖溪	287. ビヤワイ溪
13. ボンボン溪	68. 伊霍霍爾溪	123. ブタンブーナス溪	178. 到孔山溪	233. 耳聞溪	288. ホレック溪
14. バヌン溪	69. 清水溪	124. フタンサベアール溪	179. 旧虎尾溪	234. 合歡溪	289. 馬里潤丸溪
15. テングル溪	70. タバ溪	125. タックフクラ溪	180. 新虎尾溪	235. 假名字溪	290. 薩克垂臣溪
16. シジウ溪	71. 螺子溪	126. タホオワー溪	181. 濁水溪	236. 久良屏溪	291. 塔克金溪
17. シナコフ溪	72. 鼈溪	127. サブサブルス溪	182. 清水溪	237. 馬崙溪	292. 干溪
18. 蕃社坑溪	73. 石門溪	128. フバシフ溪	183. 東塊蚵溪	238. 十文溪	293. 塔曼溪
19. 打狗溪	74. 三富川	129. ノバシ溪	184. 水裡溪	239. 大安溪	294. 拉拉溪
20. 冬山溪	75. キナブカ溪	130. ウイキ溪	185. 陳有蘭溪	240. 老庄溪	295. 三峽溪
21. 武老坑溪	76. バナニワン溪	131. ラックス溪	186. 丹郡大溪	241. 小雪溪	296. 双溪
22. 圳頭溪	77. 北溪	132. ナッサウ溪	187. 十社力溪	242. 馬達拉溪	297. 橫溪
23. 大南澳北溪	78. 馬武窟溪	133. 宝来溪	188. プガサン溪	243. 雪山溪	298. 大羅南溪
24. 南澳溪	79. 卑南大溪	134. 濁口溪	189. マヘボ溪	244. 大雪溪	299. チャコン溪
25. 大南澳溪	80. 新武呂溪	135. カ島社溪	190. 南溪	245. 房裡溪	300. 南勢溪
26. 和平溪	81. 鹿寮溪	136. 番仔寮溪	191. 北溪	246. 烏眉溪	301. 新店溪
27. 布肖丸溪	82. 北絲閣溪	137. 武洛溪	192. 魚寮溪	247. 南勢坑溪	302. 阿玉溪
28. モヘイ溪	83. 鹿野溪	138. 隘寮溪	193. 北溪	248. 後龍溪	303. 桶後溪
29. 濶々庫溪	84. 大南溪	139. 愛河	194. 麥嶼厝溪	249. 打木溪	304. 鯨魚堀溪
30. ウライ溪	85. 呂家溪	140. 後勁溪	195. 鹿港溪	250. 鷄籠溪	305. 北勢溪
31. 大濁水南溪	86. 知本溪	141. 典宝溪	196. 洋子昔溪	251. 南湖溪	306. 景美溪
32. 大清水溪	87. 太麻里溪	142. 五里林溪	197. 大肚溪	252. 大湖溪	307. 石碇溪
33. 立霧溪	88. 金崙溪	143. 竹子口溪	198. 大里溪	253. 汶水溪	308. 双溪
34. ラウシ溪	89. 大溪	144. 阿公店溪	199. 大坑溪	254. 八卦力溪	309. 基隆溪
35. 大沙溪	90. 津林溪	145. 三爺宮溪	200. 哆多囉羅固溪	255. 老田寮溪	310. 暖暖溪
36. シカラハン溪	91. 大鳥萬溪	146. 許果溪	201. 烏溪	256. 中港溪	311. 鶯歌石溪
37. 小ワイル溪	92. 大武溪	147. 深坑子溪	202. 頭汁坑溪	257. 峨眉溪	312. 瑪陵坑溪
38. トボユ溪	93. 安朔溪	148. 二層行溪	203. バラ溪	258. 東河	313. 友蚵溪
39. 三棧溪	94. クワルン溪	149. 塩水溪	204. 水長流溪	259. ビリン溪	314. 双溪
40. 沙婆礫溪	95. チャチャガトアン溪	150. 鹿耳門溪	205. 眉原溪	260. 風尾溪	315. 曠溪
41. 美崙溪	96. カチライ溪	151. 曾文溪	206. 北港溪	261. 南溪	316. 公司田溪
42. 七脚川溪	97. スケヤ溪	152. ヤウチナ溪	207. テビルン溪	262. 客雅溪	317. 大屯溪
43. 木瓜溪	98. 港口溪	153. 大埔溪	208. マシトバオン溪	263. 頭前溪	318. 八連溪
44. バトル溪	99. 保力溪	154. 後大埔溪	209. 無名溪	264. 出羅溪	319. 老梅溪
45. バトラン溪	100. 四重溪	155. タクブヤ溪	210. 東峰溪	265. 上坪溪	320. 阿里磅溪
46. 柴田溪	101. 楓港溪	156. トヤチ溪	211. 關刀溪	266. 麥巴来溪	321. 橫溪
47. 丸田溪	102. 大石盤溪	157. 黃口坑溪	212. 阿冷溪	267. 霞喀羅溪	322. 瑪練溪
48. 清水溪	103. 枋山溪	158. 草蘭溪	213. 山杉溪	268. ヤバカン溪	323. 隘寮北溪
49. 清流溪	104. 西都驕溪	159. 後壠溪	214. 眉溪	269. 鳳山溪	324. 巒大溪
50. 花蓮溪	105. 南勢湖溪	160. 楠梓仙溪	215. 南山溪	270. 霄裡溪	325. 加走寮溪
51. 老溪	106. 率芒溪	161. 三股子溪	216. 東眼溪	271. 馬武督溪	
52. 白駱溪	107. 士文溪	162. 七股溪	217. 南港溪	272. 新庄子溪	
53. 知牙漢溪	108. 林辺溪	163. 將軍溪	218. 大林溪	273. 杜子溪	
54. 清冒溪	109. クワルス溪	164. 八掌溪	219. 禾重瓜溪	274. 新街溪	
55. チャカン溪	110. トアアウ社溪	165. 急水溪	220. 馬麟溪	275. 東勢川	



第5図 台湾における「河」「川」のつく河川名

る。中でも淡水河は大きく、台湾としては例外的に水量が豊かで、流れが緩やかである。基隆河もその傾向が強い。中港溪の支流である東河（大・小東河がある）は、前清時代は荒野で当時この河川には名称はなかったが、新竹の東にある河川という意味で「東河」と呼ばれるようになった¹⁴⁾。これは非常にめ

ずらしい例であり、なぜ「河」と呼ばれたかは分からない。一般的に言えることは、淡水河の例のように水量が多く、流れの緩やかな川に対しては「河」がつけられている。しかし、言語学者橋本万太郎によると¹⁵⁾、華北は「河」・華中・南は「江」がつくのが一般的とされることに対して、この台湾北部で、



1. 羊尾溪 2. 河頭溪 3. 南溪 4. 永定溪 5. 山溪 6. 連水 7. 鄞江 8. 汀江 9. 龍江 10. 瑄溪 11. 西溪
12. 東溪 13. 龍津溪 14. 龍江 15. 感化溪 16. 西埔溪 17. 九鵬溪 18. 霍溪 19. 雁溪 20. 晉江 21. 西溪
22. 東溪 23. 欄溪 24. 双溪 25. 大樟溪 26. 閩溪 27. 清溪 28. 吉田溪 29. 尤溪 30. 湖頭溪 31. 劍溪 32. 建溪
33. 東溪 34. 七星溪 35. 底溪 36. 青潭溪 37. 南浦溪 38. 崇溪 39. 西溪 40. 沙溪 41. 明溪 42. 九龍溪
43. 吉溪 44. 清溪 45. 文川溪 46. 富屯溪 47. 将溪 48. 池湖溪 49. 梅溪 50. 寧溪 51. 連江 52. 欄溪 53. 岱江
54. 金溪 55. 霍溪 56. 南門溪 57. 廉溪 58. 平溪 59. 双溪

第6図 福建省における河川名

なぜ「河」が集中的に用いられているのかは分からない。この点については、今後の課題としたい。

いずれにせよ、台湾の河川で「河」あるいは「川」と呼ばれているものは非常に少なく、ほとんどの河川を「溪」と称しているのが台湾の大きな特徴である。その理由としては次のようにまとめることができる。

第一に、台湾の河川は非常に高い台湾山脈に源を発しており、東西の両海岸までの河川の長さが総じて短いためにその傾斜が急である。それによって、粗大な石や砂が下流にいたるまで堆積してしまい、河底は極めて浅い。その上、雨量の多い時には河川の幅いっぱいまで水が流れるが、雨量の少ない時には川は枯れてしまい、細流となって河床を露呈するようになってしまう。このようなことから、台湾の河川のほとんどを「溪」と称するようになった。

第二に、台湾に移住してきた漢民族は、そのほとんどが対岸の福建省、広東省からきた。それゆえ、台湾文化はいろいろな部分で福建省の影響を受けている。とくに、台湾の西部ではその影響は強く現れている。福建省、広東省東部においては、大きな河川の下流は「江」と呼び、山地の河川の名称には、鄞江、汀江を除く、「溪」の語を用いている。

第6図は中国福建省の河川の分布を表したものである。この図から福建省の59河川のうち、とくに、大きな河川である龍江、晋江、閩江、岱江、欄江、連江は「江」と称しているが、その他の河川はすべて「溪」と呼ばれており、「河」および「川」を用いている河川は存在しない。このような背景から、台湾のほとんどの河川とくに西海岸に注いでいる河川には、距離も長く傾斜も緩やかなものがあり、本来「河」あるいは「江」とつけてもよいと思われるのに「溪」と呼ばれているのは、移住者の出身地である福建省、広東省の慣用的な呼び方に従ったと思われる¹⁶⁾。

V まとめ

台湾の地形地名の中から「山」のつく行政地名および「溪」のつく行政地名について、その分布状況を中心に分析を行った。その結果「山」のつく行政地名の中には「沙山」、「鳳山」の例にみられるように、その地域が完全に低地であり、山あるいは山岳とは関係のない場所に「山」のつく行政地名が数多く分布していることが分かった。

「溪」のつく行政地名は平地の河川（その大半は語尾に「溪」がつく）沿岸に立地する集落であることが分かったが、なぜ山地の河川沿いには少ないかは分からない。

また、河川名語尾について考察した結果、台湾の河川名語尾はほとんどが「溪」であり、その比率は94%近くに達している。その中には河川の長さおよび河川の幅からみれば、「河」あるいは「江」と称されてもおかしくないものもある。例えば、台湾の中で一番長い濁水溪は163kmの長さを有しているが「河」と称さず「溪」と称しているのが、その一例である。

このように、「山」のつく行政地名および「溪」のつく河川名の中に、その地形と直接関係していないものが多くの比率で存在していることは、福建省や江蘇省との比較で明らかになった。この傾向は、「山」「溪」だけでなく、「平」「海」「湾」等を用いたそのほかの地形地名にもみることができる。本稿をとおして、台湾では地形地名でありながら、その地形と直接関連していない地名がかなりの比率で存在していることが明らかとなった。台湾の地形地名は台湾の地形的特徴と深いかわりがあると同時に、漢民族一般の自然観がよく現れていると言えよう。

本稿は、1995年度に立正大学に提出した博士論文の一部である。論文作成に際しては、立正大学地理学教室の正井泰夫教授をはじめとする諸先生方に終始御指導いただきました。

末筆ながら、この場を借りて深くお礼申し上げます。

(1995年12月5日 受付)

(1996年1月29日 受理)

注および参考文献

- 1) 正井泰夫 (1966) : 『地名と地形・水』, 言語生活, 41-6, 18~29.
- 2) 松尾俊郎 (1976) : 『日本の地名』新人物往来社, 254 p.
- 3) 陳 正祥 (1961) : 『台湾の地名』, 人文地理, 12-5, 33~47.
- 4) 前掲 3)
- 5) 富田芳郎 (1972) : 『台湾地形発達史の研究』古今書院, 12~35.
- 6) 陳 国章 (1990) : 『坑』の字を用いて命名された台湾地名の読み方, 意味および分布』台湾師範大学地理教育第16期, 1~13.
- 7) 月刊地理編集部 (1982) : 『地理臨時増刊号 地名の世界』古今書院, 187 p.
- 8) 吉田東伍 (1909) : 『大日本地名辞書続編』富山房.
- 9) 前掲 5)
- 10) 台湾省文献委員会 (1972) : 『台湾省通志卷4 経済志水利篇』, 189~201.
- 11) 台湾省文献委員会 (1992) : 『重修台湾省通志卷4 経済志水利篇第2冊』, 1186.
- 12) 前掲 10).
- 13) 曾玉昆 (1992) : 『高雄市各区發展淵源上冊』高雄市文献委員会, 41~47.
- 14) 前掲 10)
- 15) 牛汝辰 (1993) : 『中国地名文化』中国華僑出版社, 237 p.
- 16) 梶村大彬 (1985) : 『世界の地理名称 (上巻)』古今書院, 440 p.

Topography-related Place Names in Taiwan

Bo-Wen LIU*

This research focuses on topography-related place names in Taiwan. The term “topography-related place names” refers, in this paper, to 1) place names containing at least one letter (kanji) with some meaning of topography such as mountain, river, sea or the lake, 2) suffixes of river names, and 3) others.

First, the general view of topography-related place names in Taiwan is explained. Taiwan's topography generally consists of high and dissected mountains, the Taiwan Mountain Range being central, hilly areas, and lowlands.

In Taiwan, the place names with the word “mountain 山” are most numerous. This is to be highlighted by the following explanation. No place in Taiwan is outside the limits of visibility of mountains largely because of the relatively small size of the island and the existence of high mountains. It is very likely for anyone to have a perception of mountain when he names a place, and also this kind of place naming was accelerated by the early settlers from Mainland China, especially Fujiang Province, who certainly had the Chinese perception of nature. A result is that in Taiwan a considerably many place names (4%) are with the word “mountain”. This is to be compared with, in relative degree of appearance, fewer place names with the word “mountain” (3%) in Chiangsu Province where mountains are practically non-existent.

The word “mountain stream 溪” also appears in a large number as part of place names. However, these place names tend to be found on lowland contrary to the very few appearance in the mountains. The reason is not known. Taiwan's river names are well known for their having “mountain stream” as suffixes. In fact, most of them fall in this category but “big river 河” appears in four rivers, and three of them are found in the north around Taipei. This is quite strange, since this word tends to appear in northern China, not in central or southern China. But the reason is unknown in this case too. The word “river 川” also appears in 15 rivers, but all of these are found around Taipei. Geographical distribution of this word is thought to have Japanese influence in the early 20 th century.

* Graduate Student, Risho University